

麻疹（はしか）

麻疹にかかると、発熱、鼻水、咳、眼の充血、咽頭痛などの症状が出現します。麻疹ウイルスが原因ですが、とても感染性が強いウイルスです。咳やくしゃみにより、感染がひろがります（空気感染）。

症状

典型的には、以下の症状で始まります。

- ・ 発熱
- ・ 咳
- ・ 鼻水
- ・ 眼の充血（結膜炎）

症状発現 2, 3 日後に口の中に小さな白い斑点（コプリック斑）が現れます。

症状発現 3-5 日後に、全身に発疹が現れます。扁平の紅い斑点で髪が生え際に現れ、頸部、体幹部、手足へとひろがります。その発疹は互いに繋がったりします。発疹の出現とともに、高熱が出ます。

数日後、解熱し、発疹も消えていきます。

潜伏期

感染して約 14 日（7-21 日）して、発疹が現れます。

感染経路

麻疹ウイルスは患者の鼻やのどの粘膜に生着する感染性の高いウイルスです。咳やくしゃみをした時のしぶきに含まれるウイルスによって感染します。ウイルスが付着した物を触った手で、自分の口や鼻を触ったりしても感染します。

（” Measles (Rubeola),” Centers for Disease Control and Prevention, <https://www.cdc.gov/measles/index.html> より）

予防法

麻疹は空気感染するため、手洗いやマスクでは予防ができません。ワクチン

接種が感染予防に重要です。このことは特に医学系・教育系の学生・教職員、病院職員にとって重要です。

麻疹の罹患歴・ワクチン接種歴を確認し、これまでに麻疹にかかったことがなく、かつワクチン接種を2回行っていない（不明の場合を含む）場合については、ワクチン接種をご検討ください。

医療機関を受診する場合

麻疹が疑われる症状が見られた場合には、次の事項に留意して、速やかに医療機関を受診してください。

- ・必ず、受診前に医療機関に電話連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えた上で、医療機関の指示に従って受診してください。
- ・受診の際には、公共交通機関の利用は控え、できるだけ他の人との接触を避けてください。

麻疹と診断された場合

麻疹と診断された場合は、登校・出勤せず、担当事務ならびに保健管理センターにご連絡ください。

・学校における出席停止期間の基準

解熱した後3日を経過するまで（学校保健安全法施行規則）

・病院職員ならびに診療に従事する者

まず、病院感染制御部（Tel: 082-257-5372）に連絡の上、その指示に従ってください。

ご不明な点があれば、ご相談ください。

保健管理センター（Tel: 082-424-6192, email: health@hiroshima-u.ac.jp）